


平成18年度 調査研究事業報告書

# 「地域講師の活動状況と学習志向に関する調査」

平成19年3月

Mie lifelong learning center   
三重県生涯学習センター

## はじめに

近年、三重の地においても、都市化や核家族化、少子高齢社会化等の進展によって、地域の連帯感や人間関係の希薄化が進み、個人が主体的に地域や社会に貢献できる活動機会が減少してきました。

一方、終戦直後の1947年から49年までの「ベビーブーム」時代に誕生された、いわゆる「団塊世代」の方々が定年退職を迎えられ、それぞれの地域において第二の人生活動を開始される年の幕開けを迎えました。内閣府の調査によれば、2007年内に60歳に達する団塊世代は全国で約669万人を数え、その6割強の人々が定年後も何らかの形で働いたり、社会のために役立ちたいという強い意志を持っておられるとのことでした。

このような現状を踏まえて文部科学省では、平成19年度事業において「教育サポーター」制度の創設を打ち出しています。これは5～10年先を見据えた、地域における社会教育施策のグランドデザインを示したものだといえます。主として「2007年問題」として注目されている団塊世代の方々を中心に、地域住民ひとり一人が有する豊かな経験や知恵・技能などを、「教育サポーター」として地域社会に還元していける仕組みづくりを、官民一体となって創設していこうとするものです。この教育サポーターの活動によって、それぞれの地域社会が抱える諸課題（子育て支援、青少年の健全育成、高齢者福祉、住みよいまちづくり、等々）や、目指すべき地域社会像を明らかにしていくとともに、その解決に住民すべてが主体的に取り組んでいこうとするものです。

三重県生涯学習センターでは、毎年当センターのホームページ上にて、県内各地域別にそれぞれの地域における生涯学習の講師や支援者としてご活躍できる人材を常に更新しながら、「講師・指導者」情報として生涯学習のサポーターとして位置づけた情報提供を行っています。その数は多種多様な分野にわたって、平成19年2月末現在で1000名弱の多士済々な皆様が登録されています。しかしながら、それらの方々の活躍の場は必ずしも十分とはいえず、活動の機会を求められる声は当センターへも直接寄せられています。

このようなことから、本調査研究では「地域講師の活動状況と学習志向に関する調査」と題して、三重県生涯学習センターに登録されている講師・指導者の地域における登録状況と活動状況の実態を通じ、地域の教育サポーターが求めるものと、地域における社会教育・生涯学習施設の果たすべき役割等を明確にしていきたいと考えます。

この調査研究報告書が、本県における生涯学習・社会教育機関の今後の在り方について考える一助になればと考え、県内関係機関の皆様にもご一読願いたいと希望するところであります。

本調査研究にご協力いただきました、本県関係機関の皆様とアンケート調査にお応えいただきました、講師・指導者登録者の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成19年3月

三重県生涯学習センター所長

星 野 茂

## 目 次

I	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	実施概要	1
II	調査結果	
1	結果	2
2	考察	9
III	まとめ	18
IV	付録	
	・みえ生涯学習ネットワーク（イメージ図説）	
	・質問用紙	

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、三重県生涯学習センター生涯学習情報提供システムに登録している講師・指導者に対する活動実態や、他の機関・施設等が有する講師・指導者データベース等への登録状況及び生涯学習を目的とした団体・グループ等への所属状況の調査を通じて、地域の講師・指導者が求めているものや、より活発な地域活動に必要な取組等についての志向性を抽出するものである。

そして、本調査結果を広く公表し、地域の講師・指導者の活動を支援するとともに、本県の生涯学習・社会教育関係機関のこれからのあり方を考える一助となることを目的とする。

## 2 実施概要

- |         |  |
|---------|--|
| ① 対象者   | 三重県生涯学習センター 生涯学習情報提供システム<br>「講師・指導者情報」登録者 933名 |
| ② 実施期間  | 自 H18.10.1 ～ 至 H18.11.30                       |
| ③ 調査方法  | 郵送による配布・回収                                     |
| ④ 分析方法  | 定量分析   |
| ⑤ 調査対象数 | 911件<br>(933件中、22件が転居先不明等により返送)                |
| ⑥ 回収結果  | 390件 回収率42.8%                                  |

調査機関 財団法人 三重県文化振興事業団 三重県生涯学習センター（所長 星野 茂）  
監 修 三重県教育委員会事務局 生涯学習室（室長 木平 純子）

### 本文中の記載について

「地域講師」…………… 地域での活動を主体とする生涯学習活動の実践・指導者  
「地域活動」…………… 地域講師による生涯学習活動の実践・指導

## II 調査結果

### 1 結果

#### (1) 回答者の属性

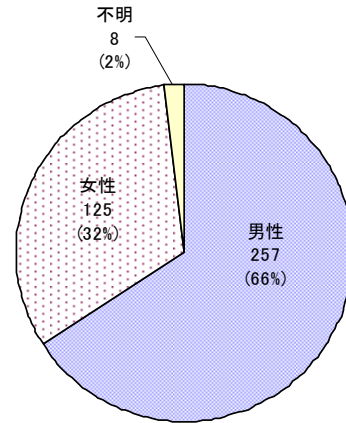
##### ① 性別

回答者の男女比は、およそ2：1である。

男性（257人／66%）

女性（125人／32%）

不明（8人／2%）

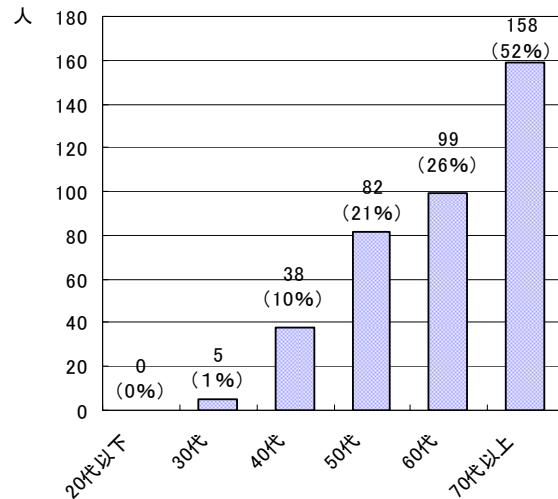


〈図表1〉回答者の男女比

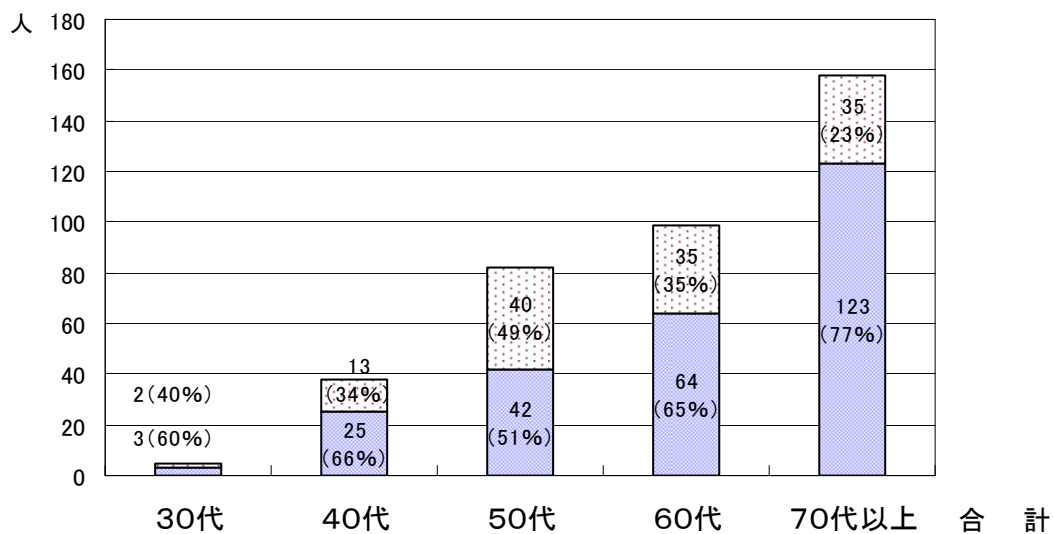
##### ② 年代

回答者の年齢分布は60歳代、70歳代以上が半数以上を占めている。今後「団塊の世代」の地域活動への参画を考えると、今後も高齢世代の増加傾向が予想される。

また、年齢別の男女比（図表3）を見ると、全年代において、男性の回答数が女性の回答数を上回っており特に、70歳代以上になると、その割合はおよそ7：3（男性123人／77%、女性35人／23%）になる。



〈図表2〉回答者の年齢分布



	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
女性	2	13	40	35	35	125
男性	3	25	42	64	123	257

〈図表3〉回答者の年齢別男女比

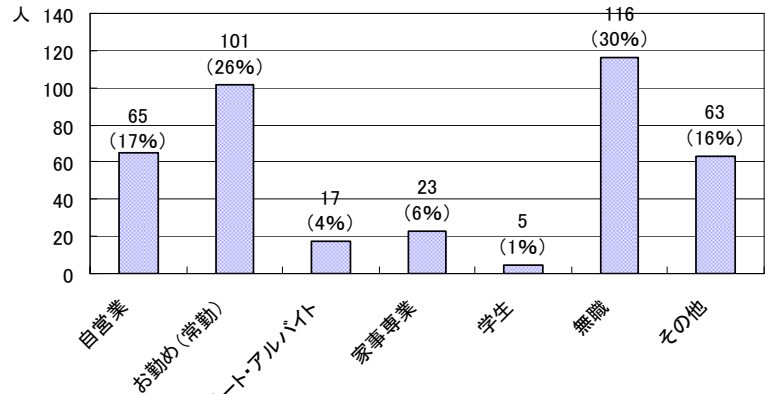
③居住地（掲載順は、県刊行物等を参照）

市町名	回答数	市町名	回答数	市町名	回答数	市町名	回答数
桑名市	20	亀山市	18	志摩市	6	御浜町	4
いなべ市	8	津市	132	南伊勢町	4	紀宝町	1
木曾岬町	1	松阪市	26	大紀町	2	県外	25
東員町	1	多気町	4	伊賀市	16	不明	4
四日市市	29	明和町	2	名張市	14		
菰野町	5	大台町	4	尾鷲市	6		
朝日町	2	伊勢市	23	紀北町	5		
鈴鹿市	23	鳥羽市	2	熊野市	3	合計	390

〈図表4〉回答者の所属市町

④就業・就学の状況

「自営業」が約2割（65人／17%）、年齢分布と呼応するように、「無職」「その他」の割合が約半数（179人／46%）を占めている。「その他」の中には、会社役員、大学講師（非常勤）、僧侶、自由業などが含まれている。

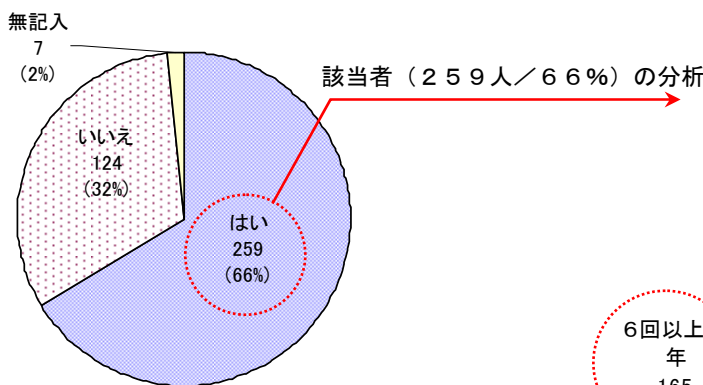


〈図表5〉回答者の有給就業・在学

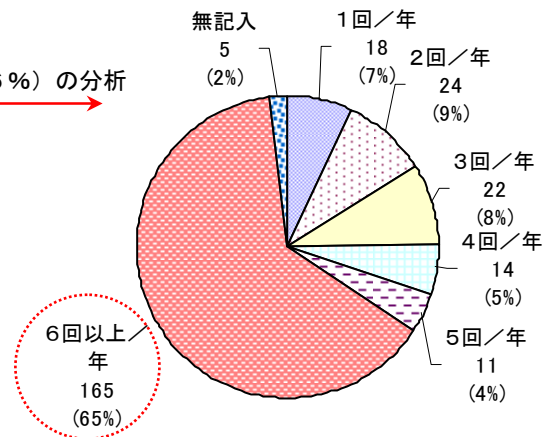
(2) 地域活動の実態

① 近年の活動実態（活動の有無・活動回数）

回答者のうち、7割近く（259人／66%）が、この1年間に何らかの地域活動をしている。また、活動回数については「6回以上」が6割以上（165人／65%）を占めており、地域活動数の幅に、大きな個人差がある。



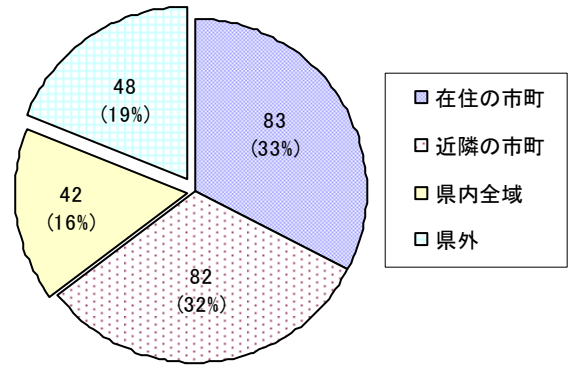
〈図表6〉地域活動（1年間）



〈図表7〉地域活動回数（1年間）

## ② 活動範囲

「在住の市町」「近隣の市町」での活動が6割（165人／65％）を越えている。この範囲が地域活動としての主たる活動場所であることから、活動に関する情報等は、これらの地域に点在する活動場所として使用されている施設、機関に設置することが効果的と考えられる。

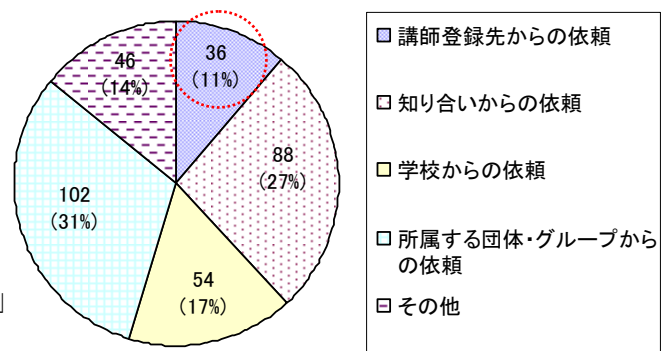


〈図表8〉地域活動範囲（1年間）

## ③ 地域講師としての活動を依頼してくるところ

最も多かった回答は、「所属する団体・グループからの依頼」（102件／31％）で、次に「知り合いからの依頼」（88件／27％）となっている。「講師登録先からの依頼」は1割程度（36件／11％）である。

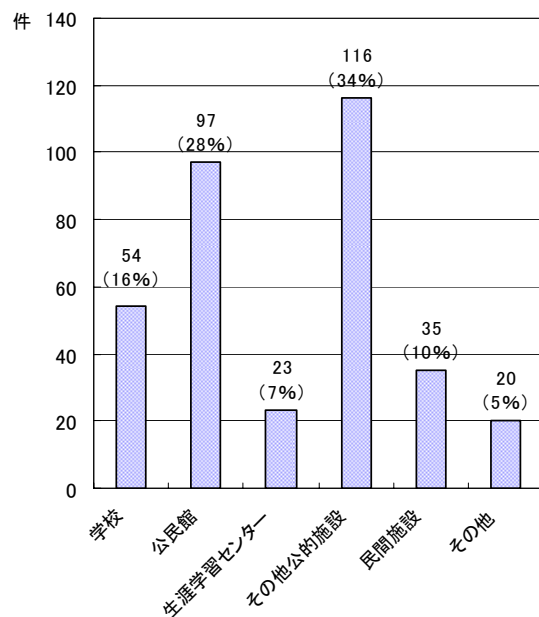
「その他」の中には「インターネット情報から」「講師自身のホームページを見て」「民間企業から」などが含まれている。



〈図表9〉地域活動依頼先（複数回答）

## ④ 活動施設

学校、公民館、生涯学習センターを除いた「その他公的施設」（116件／34％）が最も多く、次に「公民館」（97件／28％）「学校」（54件／16％）の順となっている。「生涯学習センター」「民間施設」を利用した活動は少ない。地域にある無料施設が多く利用されている。

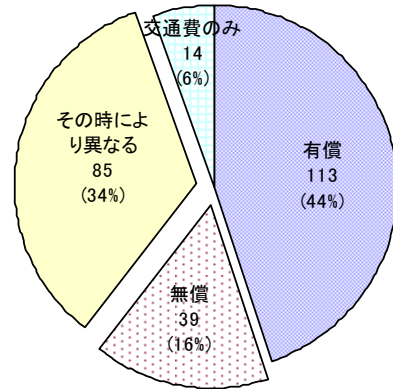


〈図表10〉

地域活動に使用した施設（複数回答）

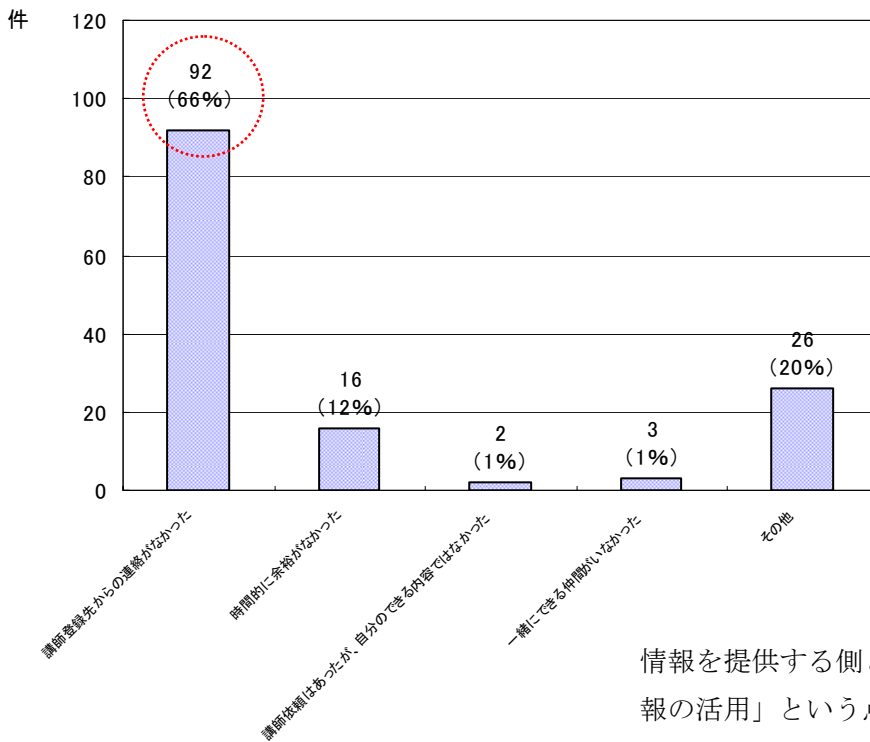
## ⑤ 報酬の有無

「有償」「交通費のみ」の回答が合計で5割（127人／50％）となっている。また、「無償」は2割に満たなかった（39人／16％）。内訳としては、1回の報酬額は5,000円～10,000円が最も多く、回答者の平均的な報酬額はおよそ9,000円前後であり、中には100,000円を越える報酬額もあった。



〈図表11〉活動報酬

## ⑥ 活動できなかった理由



〈図表12〉

回答者が考える活動できなかった理由

（複数回答）

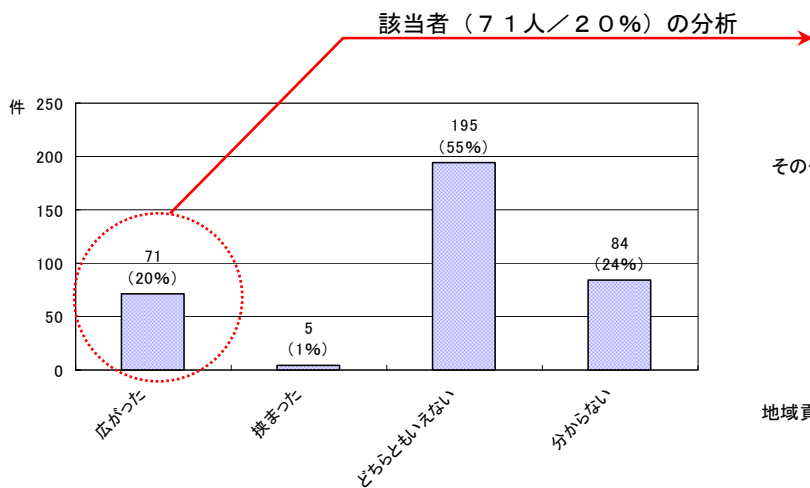
調査票で、「1年間、1度も地域活動をしなかった（できなかった）」と回答した回答者の集計である。「講師登録先からの連絡がなかった」が圧倒的に多い（92件／66％）。前述の結果（P. 4 ③ 地域講師としての活動を依頼してくるところ 参照）からも分かるように、「講師登録先からの依頼」は1割程度である。

情報を提供する側と、情報を登録している側には「情報の活用」という点において、求める効果とその見解に違いがあるようである。「その他」の中には「体調不良」「家族の介護のため」などが含まれている。

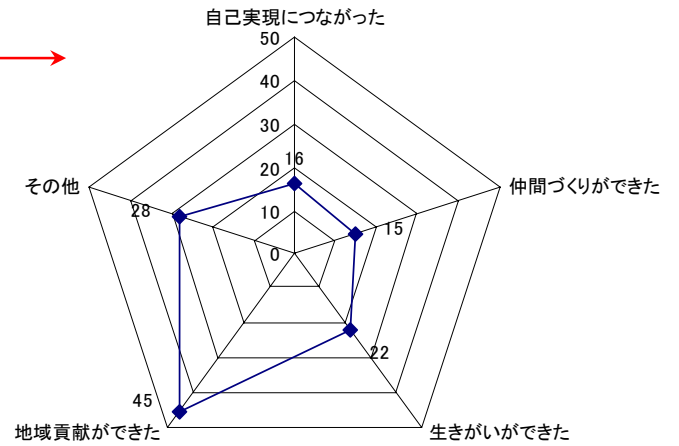
## （3）「講師登録」がもたらす地域活動への変化

講師登録をしたことによる地域活動の幅の変化については、「広がった」との回答が、合計で2割（271件／20％）を占めている（図表13）。また、図表14から「広がった」と回答した回答者の実感としては「地域貢献ができた」という意見が多い（45件／35％）。回答者の実感として、「仲間づくり」「生きがい」「自己実現」よりも、自らの技術や知識を地域に活かしたいという点が重要視されているようである。





〈図表 1 3〉 講師登録後の地域活動の幅の変化



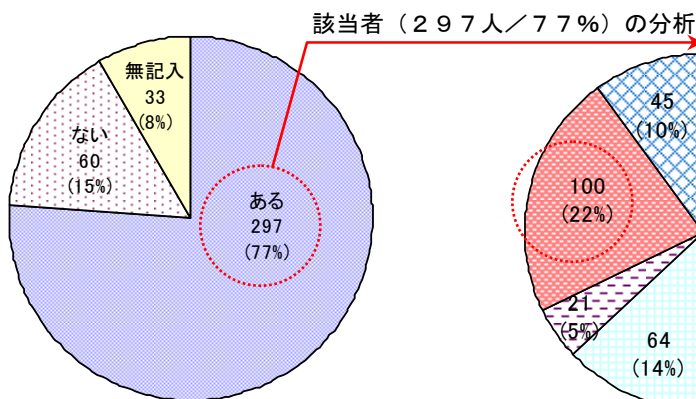
〈図表 1 4〉 「広がった」と感じる点  
(複数回答)

#### (4) 講師自らによる「スキルアップ」への取り組み

##### ① 取り組みの実態

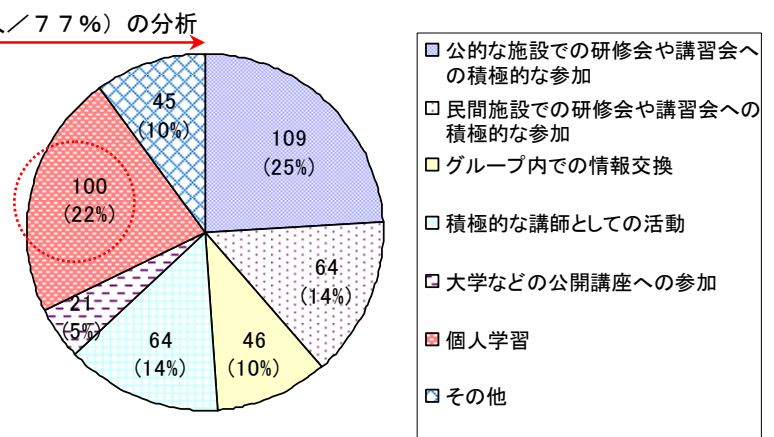
7割（297人／77％）を越える回答者が、自らの向上のための取り組みを行っている（図表15）。その内訳（図表16）を見ると、「公的な施設での研修会や講習会への積極的な参加」（109件／25％）の次に、「個人学習」（100件／22％）の割合が多い。個人学習もスキルアップ方法の一つではあるが、研修会や講習会などへの参加機会などの点で考えると、団体・グループへ所属している方が情報を入手しやすく、スキルアップの取り組みをより容易にし、地域活動の活性化につながるようである。

(P. 8 ③ 団体・グループへの所属 参照)



〈図表 1 5〉

スキルアップへの取り組み



〈図表 1 6〉

スキルアップへの取り組み

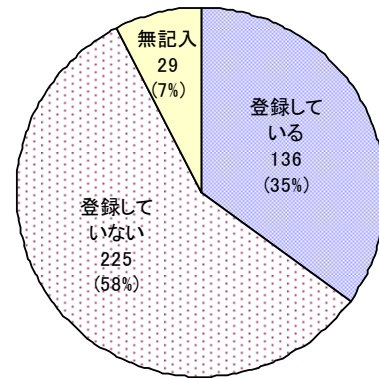
(内訳・複数回答)

## ② 複数データベースへの登録

三重県生涯学習センター以外へのデータベース登録状況は3割程度（136人／35％）にとどまっている。

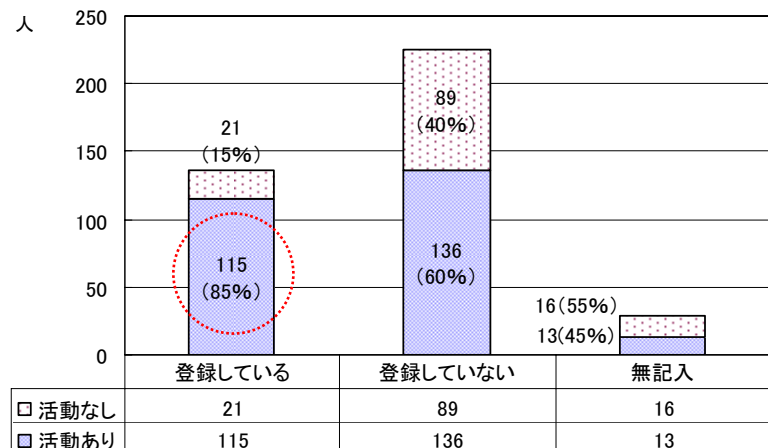
また、この1年間の地域活動歴（図表18）を見ると、複数データベースへ登録している回答者の約8割（115人／85％）に地域活動があったのに対し、複数データベース登録していない回答者では6割（136人／60％）となっている。

地域活動の活性化・支援という点で、複数データベースへの登録は有効であると考えられる。



〈図表17〉

複数データベースへの登録状況



〈図表18〉

複数データベースへの登録状況別活動歴

### 三重県生涯学習センター以外の、主な複数登録先（抜粋）

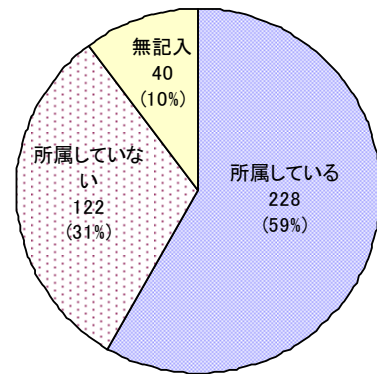
桑名市ボランティアセンター	みえこどもの城	みえシニアリーダーバンク
四日市市 市民文化部	各地域の公民館	三重県スキー連盟
亀山市ボランティアセンター	津中日文化センター	(社) 三重県各種学校総連合会
名張市スポーツリーダーバンク	毎日文化センター	総合型地域スポーツクラブ
津市教育委員会	三重県退職教職員互助会	日本体育協会
伊勢市生涯学習センター	みえ社会保険センター	日本レクリエーション協会

順不同

### ③ 団体・グループへの所属

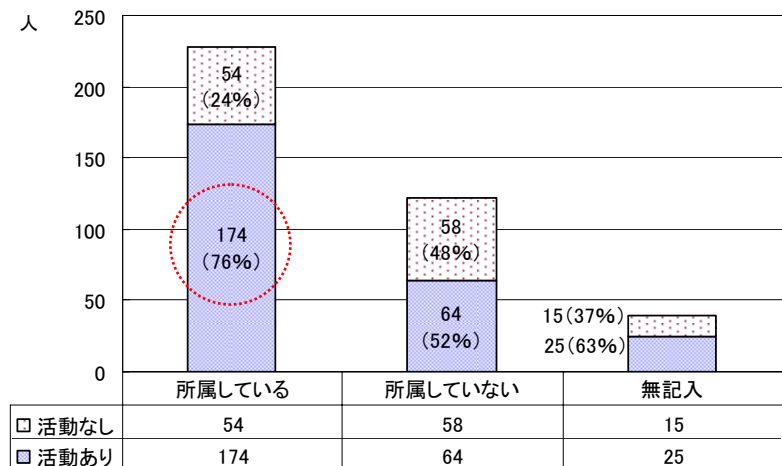
5割以上の回答者（228人／59%）が、生涯学習に関する何らかの団体・グループに所属している（図表19）。

また、この1年間の地域活動歴（図表20）を見ると、団体・グループに所属している回答者のうち7割以上（174人／76%）に活動があったのに対し、団体・グループに所属していない回答者では5割程度（64人／52%）となっている。地域活動の活性化・支援という点で、団体・グループへの所属が有効であると考えられる。



〈図表19〉

団体・グループへの所属状況



〈図表20〉

団体・グループへの所属状況別活動歴

## 2 考 察

### (1) 考察の視点

今回の調査で集計した回答者の地域活動の有無（Q. 4）と、スキルアップのための取り組みの有無（Q. 14）に焦点を当て、該当する回答者をクロス集計し、以下の4タイプ（図表21）に分類した。それぞれのタイプに見られる、より活発な地域活動に必要な各取り組みへの志向性について考察したい。

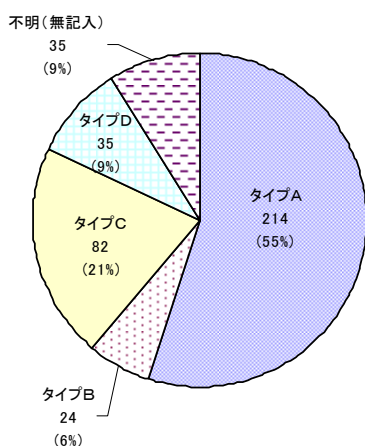
	スキルアップ	あ る	な い
講師活動	あ る	タイプA	タイプB
	な い	タイプC	タイプD

〈図表21〉

回答者のタイプ別分類表

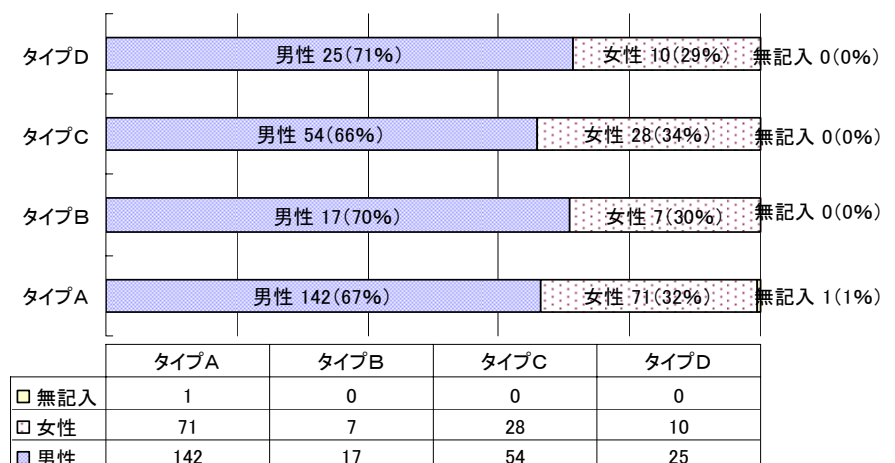
### (2) 考察の結果

該当する回答者の割合はタイプAが最も多く（214人／55%）、次にタイプC（82人／21%）、タイプD（35人／9%）、タイプB（24人／6%）の順となっている（図表22）。各タイプ別の男女比は、ほぼ同様で2：1となっており（図表23）、回答者全体の男女比（P. 2 ①性別 参照）と類似していることから、タイプ別の志向性に男女差は少ないと考えられる。



〈図表22〉

タイプ別 該当者数



〈図表23〉

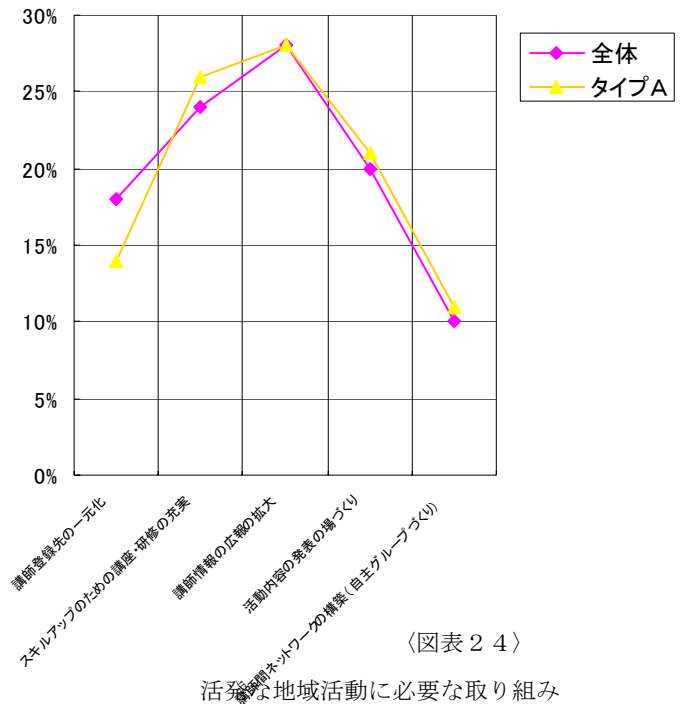
タイプ別 男女比

A	B
C	D

## タイプA

この1年間に地域活動を行い、かつスキルアップのための取り組みも実施している回答者である。

4つの中では、最も積極的に活動ができているタイプの回答者と考えられる。図表24からは、地域活動に必要な各取り組みに関する重要度の認識は、全体値と比較しても平均的な値であることが読み取れる。また、このタイプの回答者に限り、「講師登録先の一元化」の重要度が、全体値より低い値を示している。以下に、タイプA該当者の自由意見を項目別に分類した。



〈図表24〉

活動に必要な地域活動に必要な取り組み

(全体：タイプA)

### 1. 講師登録先の一元化

- ・市の生涯学習課との情報共有化を図る。
- ・情報を一元化した方が、求める人、それに応える人と、スムーズにいくと思われる。

### 2. スキルアップのための講習

- ・専門家による指導法の研修の機会を増やしてほしい。
- ・スキルアップのための研修が必要である。
- ・年2～3回、参加費無料。但し材料費自費の勉強会を開催されてはどうか。(チラシ・ポスター・新聞づくりも)
- ・講師自身が研鑽を積み、受講者に喜んでもらえるような内容をもつことが必要ではないか。
- ・講師の品格を向上させる研修が必要ではないか。
- ・指導者のスキルアップ、環境作りが必要である。

### 3. 講師情報の広報の拡大

- ・このような講師・指導者がいるということを、一般の人に分かるようにはならないだろうか。
- ・広い広報をしていただきたい。
- ・この3年間で、本講師紹介欄を見て講師依頼があったのは1件だけだった。みなさん知らないようである。
- ・民間からの研修、見学の依頼や問い合わせは多くあるので、広報の拡大が必要ではないか。
- ・企業内研修に登用されるよう働きかける。
- ・ホームページの情報をもっと具体的に紹介してもらえないか。

- ・広報の拡大が急務であり、講師本人については、学ぶことをやめてはいけないと思う。学ぶことをやめれば、教えることもやめるべきだと思う。
- ・資格者情報のPR不足である。既存の公共施設の活用課題を利用者、参加者から聞く工夫が、今後の発展、振興にもつながる。
- ・今こそ行政が「安心」「安全」をスローガンに働きかけることが重要ではないか。効果的なPRを行う。
- ・せっかく登録しているのだから小・中学校に積極的に情報を配信していただくことはできないのか。

#### **4. 活動内容の発表の場づくり**

- ・あちこちにある公民館や施設の休館日を無くしていただきたい。
- ・発表、出展の機会を多くもつ。

#### **5. 講師間ネットワークの構築**

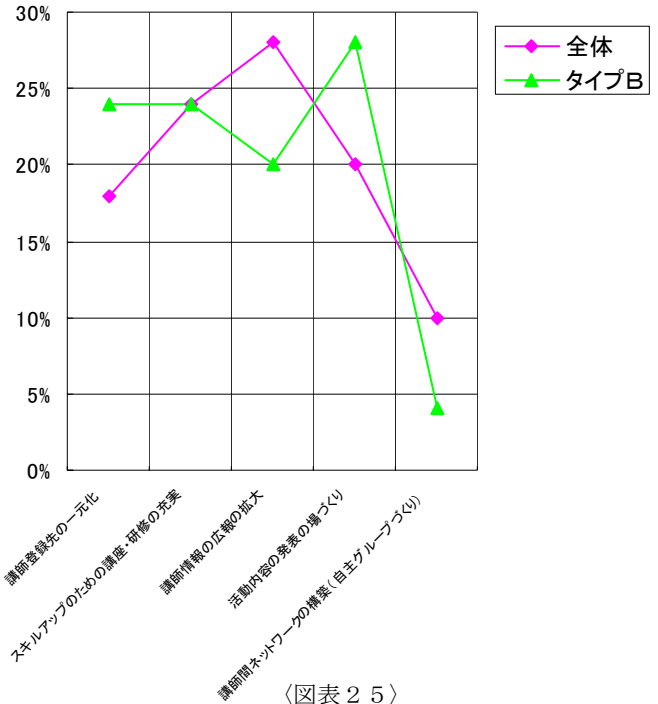
- ・同一分野間でのネットワークづくりをして地域の活性化につなげる。
- ・地域ごとの講師名簿をつくり、ネットワークをつくる。

A	B
C	D

## タイプB

この1年間に地域活動を行ったが、スキルアップには取り組まなかった回答者である。4タイプ中、最も該当者数の少ないこのタイプは、積極的な取り組みもないまま、地域の学習ニーズとの乖離が起こると、将来的に活動の機会を失うおそれがあると考えられる。

図表25からは、他のタイプよりも顕著に全体値との差異が見られる。「講師登録先の一元化」「活動内容の発表の場づくり」についての重要度は、4タイプ中最も高い割合を示しているが「講師情報の広報の拡大」については、4タイプ中最も低い値を示している。以下に、タイプB該当者の自由意見を項目別に分類した。



〈図表25〉

活発な地域活動に必要な取り組み

(全体：タイプB)

### 1. 講師登録先の一元化

(該当意見なし)

### 2. スキルアップのための講習

- ・地域活動で、主体となる人材の養成をすることにより、自主自立できる方策を推進してはどうか。

### 3. 講師情報の広報の拡大

- ・一般県民へのPRが少ない。ほかに方法は無いだろうか。
- ・行政の進め方では活動範囲が狭い。一般市民の目に触れるようにしてほしい。
- ・多くの人に知ってもらおう。

### 4. 活動内容の発表の場づくり

(該当意見なし)

### 5. 講師間ネットワークの構築

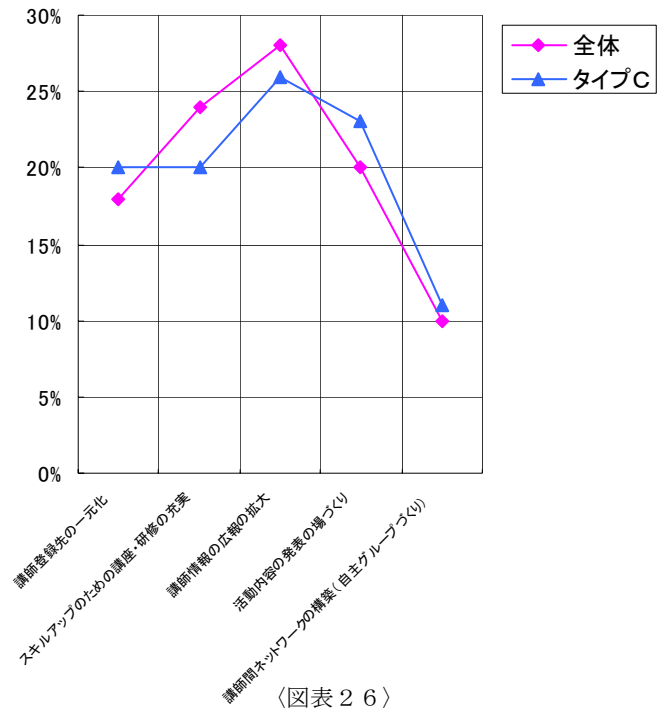
- ・ネットワークを密にし、市民主導の活動が展開できること。行政はそれを支援する役割を担う。
- ・若い指導者を対象に、過去の指導経験を伝えるチャンスがもっとあってもいいのではないか。
- ・行政と民間団体、あるいは個人との連携が大切である。
- ・地域の団体との連携を強める。
- ・単独で行動しているので、情報から遠のいている。

A	B
C	D

## タイプC

この1年間に地域の講師・指導者としての活動は無かったが、スキルアップのための取り組みは実施している回答者である。

地域の学習ニーズとの結びつきさえ出来れば、タイプAに移行する可能性はあると考えられる。図表26からは、各項目の重要度は概ね全体値に近い値を読み取ることができる。ただ、「スキルアップのための講座・研修の充実」については既に取り組んでいるものの、実際の地域活動に結びついていないこともあってか、全体値より低い傾向が見られる。以下に、タイプC該当者の自由意見を項目別に分類した。



〈図表 26〉

活発な地域活動に必要な取り組み

(全体: タイプC)

### 1. 講師登録先の一元化

- ・個人情報の問題もあるが、体育協会などと連携一体化できれば良いと思う。

### 2. スキルアップのための講習

(該当意見なし)

### 3. 講師情報の広報の拡大

- ・若年層に対する広報活動を、もっと活発に行って文化活動に携わる方々の低年齢化を進めたい。
- ・地域の方に気軽に活用していただけるよう常に広報しておく。
- ・活動状況を皆に知らせる。

### 4. 活動内容の発表の場づくり

- ・活動発表の場を増やす。

### 5. 講師間ネットワークの構築

- ・個人的に活動するしかない。小グループを作ることを進める。
- ・世代を越えてだれでもが参加できる活動グループ及び活動拠点が必要である。



A	B
C	D

## タイプD

この1年間に、地域の講師・指導者としての活動がなく、かつスキルアップのための取り組みも実施していない回答者である。迅速な学習支援と、該当者の意識の向上が望まれる。図表27からは、「講師登録先の一元化」に対する重要度が全体値より高いことが読み取れる。以下にタイプD該当者の自由意見を項目別にまとめた。

### 1. 講師登録先の一元化 (該当意見なし)

### 2. スキルアップのための講習

- ・スキルアップのための講座研修の充実を図る。

### 3. 講師情報の広報の拡大

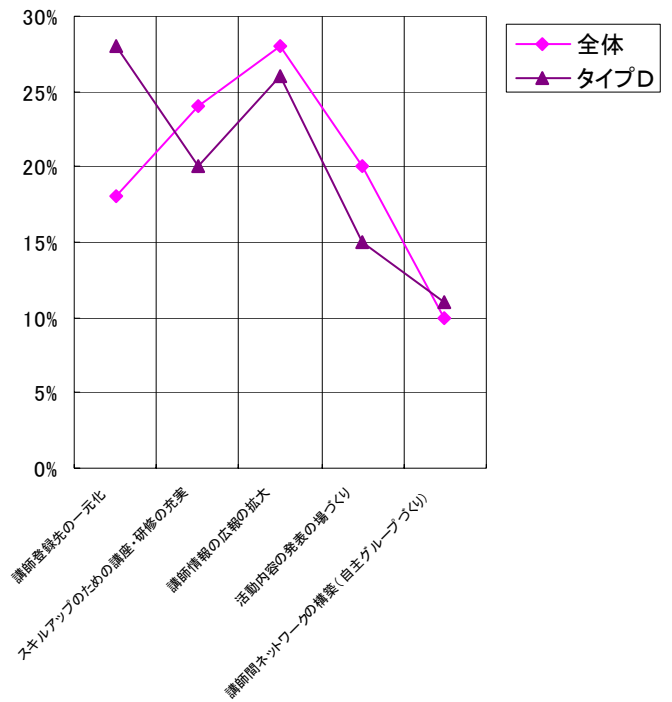
- ・活動したくても声がかからない。
- ・県広報に指導者を紹介する。
- ・講師、指導者情報の広報の拡大をしてほしい。

### 4. 活動内容の発表の場づくり

- ・公民館や集会所で定期的に集まって活動する機会があると良い。

### 5. 講師間ネットワークの構築

- ・講師間での講師情報の共有化を希望する。
- ・行政主導の交流の場づくりが必要である。
- ・世代を越えてだれでもが参加できる活動グループ及び活動拠点が必要である。



〈図表 27〉

活発な地域活動に必要な取り組み

(全体：タイプD)

## その他の意見（抜粋）

### 行政機関・生涯学習センターへの要望・期待

- ・行政も、もっと文化事業に予算支出すること。地方人材の利用をすすめること。
- ・県、市などの行政面での積極的支援、積極的発想が乏しいことに文化活動の低迷の原因がある。
- ・三重県生涯学習センターの存在感がほとんど周知されていない。
- ・登録講師をセンター自身が活用する。
- ・生涯学習部門と、地域観光部門との連携を図る（生涯学習のテーマ探し）。
- ・生涯学習センターの「顔」が見えない。より積極的な取り組みをされてはどうか。
- ・目的の明確化を図る。「要望が多いから」だけでは公共の社会教育機関としては不十分である。
- ・公民館のあるべき姿の再認識をする。
- ・公民館活動の活性化を図る。
- ・生涯学習センター自体をPRし発展させていく。
- ・行政トップの方が文化活動を理解していただくこと。
- ・高齢者の健康維持対策として、各市町の保健課、公民館への呼びかけを行う。
- ・頻繁に生涯学習担当者が異動しすぎる。
- ・地域の教育力が衰えている現在、社会教育、生涯学習センター等質的、量的拡大と充実が必要である。
- ・活動できる技術を持っていても、紹介してくれる機関がなければ一般には分からない。小学校へ行くことが多いが、自分で「他にこんなことも出来ます」と自分で言って、依頼を受けることも多い。

### 民間企業等への要望・期待

- ・地域の団体との連携を進める。
- ・企業に文化活動へ力を入れていただくことを望む。
- ・行政主導ではないユーザー（受益者）主体、主導でのスポーツクラブ化を図る。

### 後継者育成・次世代への期待

- ・若い親に対する指導の機会を設けていただきたい。
- ・地域で指導的立場になる人が少ない。若い指導者の養成が大切である。
- ・後継者の育成をしてほしい。
- ・講師後継者の人材発掘、育成、そのための環境の提供充実が必要である。
- ・子どもの育成を図る。
- ・全般にリーダー不足を感じる。

## 地域の講師・指導者数の需要と供給、質の向上

- ・学校における外部指導者は有資格者にすべきである。
- ・需要（講師依頼）より供給（講師希望者）が多いと思う。
- ・講師が多すぎる。
- ・講師の自覚が足りない。（自ら汗をかき、初心者の面倒が見られるか）
- ・地域、民間、行政の協力が必要だと思う。今、他に求めすぎ、自らの動きが少ないと感じている。

## その他（順不同）

- ・団塊世代の優れた知識、能力を活用できるシステムづくりが必要である。
- ・幼年からお年寄りまで楽しめるスポーツの振興を行う。
- ・実習を伴う学習に主力をおく（パソコン、園芸、お茶など）。
- ・交通費、時間節約のため住んでいる地域での人材活用をすすめる。
- ・地域の文化活動に積極的に参加する。
- ・70歳を越えると、自分から進んで活動をする意欲とエネルギーがどうしてもなくなる。
- ・スポーツ少年団指導を主に活動してるが、小中学校への正式指導が出来ればと考えている。
- ・より具体的な講師情報を発信していただきたい。
- ・対象とする地域の人口に比べて、きわめて少数の方（しかも固定化された方）しか講座や研修に参加していない。より多くの方にどうしたら参加していただけるかという工夫が必要である。
- ・生涯学習というものについて、型が決まってしまう感じがする。老後の生活では、「したいこと」をこだわりなく行うことができるような雰囲気を出す役割を誰かがしなければならぬ。学習ということば枠を外して活動を広げることが大事だと思う。
- ・現状には満足している。組織運営に新しい風をいれる（民意の反映、ボスのリーダーの排除）。
- ・未経験者でもすぐ取り組めるスポーツが多くあるので、そのPRや普及に努めること。
- ・教育活動に役立つ講座であっても教員の参加が少ない。教員にゆとりがないのではないかと思う。
- ・講座や研修の行われる日時、場所、内容などの情報を多くの人に知らせることが必要である。「知っていたら参加したかったのに」という声を後によく聞く。
- ・最近の社会教育、生涯学習については各機関が熱心になってきたので、良い傾向だと思う。
- ・文化活動の積極化（グループ・団体の枠を越えて）を進める。
- ・講座形式の工夫をする（参加型）。その場限りの講習になりがちではないか。
- ・生涯学習に関して、需要と供給のバランスが一致するよう、中枢機関による広報活動をすすめていくことが、利用者のニーズに応えることにつながる。
- ・関心のない方々への生涯学習センターの呼びかけが必要である。もっと知ってほしい人が気軽に参加できるサークルづくりをする。
- ・資格を持っているだけで期間が過ぎてしまい、活動意欲そのものが持てなくなる場合があると思う。指導をするための実践講座を地域でも実施されると講師の仲間づくりにもつながり、地域での活動情報の交流がはかられて、実際の活動機会も得られるのではないか。
- ・スキルアップのための講座研修の場を見つけにくい。家庭人を引っ張り出す気軽な計画があれば良い。

- ・制度としてきちんと対応するシステム作り。ニーズがないので依頼が少ないと思うが、生活文化のなかでの重要性を行政が考え、まず活用するシステム作りを構築する。
- ・三重県の生涯学習活動の様子等が知りたい。
- ・何故か分からないが、一度もお呼びがかからない。
- ・他の講師はどのような活動をしているのか聞いてみたい。
- ・まだまだ田舎なので、自ら活動しよう、ボランティアを・・・と思っても気持ち以外の何か？がじゃまをする。
- ・講師登録先を通じての依頼は皆無である。友人、知人あるいは自らの開拓で活動の場を得ているのが現状である。センターの講師に登録されているという心強さで頑張っている。
- ・社会教育、生涯学習に携わる行政職員自身も学習を始めるべきではないか。
- ・広報不足である。ホームページを見なければ分からないのはおかしい。
- ・雪の無い三重県では、対象者が限られて活動を広げることは難しい。（スキー指導員）
- ・地域に密着した講師陣の派遣と、学校へのPRをしてほしい。
- ・異分野の講師をつなげる役割を担ってほしい。講師一人ひとりの活動を実際に把握し、レベルや適性を見極めて、橋渡しをしていただくことが地域活動が活発になりレベルアップにもつながる。
- ・資格者情報のPR不足である。既存の公共施設の活用課題を利用者、参加者から聞く工夫が、今後の発展、振興にもつながる。
- ・今は公務員で、活動時間も決められ、講師料も受け取れないが、退職したら自身の学習のためにも地域活動に尽力したい。
- ・高齢者の生きがい、生き方、相互援助の考え方をテーマにした研修が必要ではないか。
- ・あくまで強制的であってはいけないので、地域の人々が趣味をもつように、また関心をもつように、焦らずこの活動をなすことが大切である。
- ・体操を通じて地域活動を目ざし、その結果どのような効果があったかを発表できる場があることが大切だと思う。

### Ⅲ まとめ

今回の調査を通じて、地域講師の活動に関するさまざまな実態から、活動の個人格差が大きいこと、理想的な活動環境について、活動を通じて求めているもの、活動に関する“要望”と“現実”とのギャップなどが明らかになった。今回は、地域活動を実践している、いわば生涯学習実践者への調査であり、この結果がそのまま県民（潜在的学習者を含む）全体の実態とは言えない。この調査報告が、本県の生涯学習振興を“軸”として担う地域講師への支援にとどまらず、これから活動を始めようとしている県民（潜在的学習者）へ学習機会や学習情報を届けるための、支援の一助となることを願う。

#### 2. 生涯学習振興の課題

##### (5) 住民の自主性・自発的活動と学習成果の活用・還元の課題

地域の主体として必要な力を身につけ、地域社会の共同性を遂行できる住民の形成により、住民自らの自主的・自発的な学習・活動が活発化していくことが必要である。これまでも述べてきたが、個々人の必要を満たし生活に潤いと豊かさ、言い換えれば、生活の質の向上を図りながら、同時に社会の構成員として地域の再生・創造のために積極的に社会参画していく多面的で多様な活動が求められる。そのためには、こうした活動を援助したり支援する行政の役割は重要であろう。

おわりに

生涯学習といえば、自己実現だといわれる。では自己実現とは何であろうか。自己の興味・関心が満たされ、自己が豊かになること、これがすなわち自己実現である。

(中略)


住民は、意識的であるかどうかは別にして、自らの生活全体を通じて、何故学びたいのか、学んでどうするのか、ということを感じとってきたのではないだろうか。様々な人との関わりの中で、自らを鍛え豊かになることを願い、地域の共通課題を自覚し何らかの地域社会に参画し自らの力を活かすことを望んで、自主的に学んだり活動してきたと思われる。これが本来的自己実現の意味するところであろう。これからの生涯学習振興は、こうした自己実現を試みる住民を軸に展開を図っていかなければならないだろう。

「第2次三重県生涯学習振興基本計画」のあり方について（答申）より

#### 地域の講師を地域で活かす

回答者である地域講師は、自身の活動範囲を「在住の市町」「近隣の市町」としていることが多く、又、地域活動を通じて「地域貢献ができる」ことにより活動の幅が広がったと感じている。今回の調査

結果を地域講師の「活動ニーズ」としてとらえるならば、「地域貢献」につながるさまざまな研修・講座・イベント等を、各地域に在住、若しくは近隣の地域に在住の講師・指導者情報と照会し、無料で利用できる公民館、カルチャーセンター、コミュニティセンター、学校の空き教室などを会場として使用することで、一つの理想的な活動パターンを構築することはできる。しかし、膨大な講師・指導者情報と多様な学習ニーズのコーディネートの実現は難しく、それには専任とも呼ぶべき生涯学習担当者の設置が必須であろう。生涯学習活動をサポートする「**学びの絆を結び合う人づくり**」はこれからの大きな課題の一つである。

※ 部は「第2次三重県生涯学習振興基本計画」より引用

## 関係機関と連携した“情報の発信基地”として

地域講師の多くは、現状のインターネット等による講師・指導者情報の提供方法には未だ十分でない印象を持っており、「講師・指導者情報の広報の拡大」が、より活発な地域活動を進める上で、最も重要と捉えられている。また、同時に取り組むべき課題として、主たる学習者層が、インターネットを活用しての情報検索に不慣れである場合が多いという現実がある。

### 6 今後の展開について

#### 6.7 本検討会の結果を踏まえた今後の課題


##### (5) 生涯学習をより推進するための仕組み作りについて

生涯学習をより推進するためには、求められている生涯学習情報を容易に取得できる仕組みづくりが必要となる。この場合、インターネットで情報提供することが適切であると考えられる。

ただし、インターネット利用だけで実施することではなく、人間同士のコミュニティとの連携を如何に構築するかが重要となる。インターネット等の情報通信ネットワークを利用したバーチャルな世界ではなく、人間的な付き合いや人間的なコミュニケーションをより豊かにし、より促進するためのネットワーク活用が基本である。

「生涯学習情報提供の在り方に関する調査研究」報告書 (文部科学省) より

学習したい人が、いつでもどこでもその分野に関する情報を検索・閲覧することができる「生涯学習情報提供システム」の、一層の充実（講師情報の一元化、活動成果の掲載、ユニバーサルデザイン化など）と、様々な生涯学習情報が活用される仕組みづくりを、各地域の関係機関と密接に連携しながら構築していく「**学びあう環境づくり**」が現状での課題と考えられる。

※ 部は「第2次三重県生涯学習振興基本計画」より引用

## 地域活動における“理想”と“現実”

多くの地域講師の中には、「講師情報の登録＝講師活動の斡旋」という図式が無意識的に成立しており、自らの活動の幅を広げる手段を特別には講じず、「受け身」の状態で依頼を待っている現状が伺える。しかし、「登録先からの依頼」の件数は全体の1割程度であるのに対して、「所属する団体・グループからの依頼」「知り合いからの依頼」「学校からの依頼」が7割強を占めている現状を見ると、より活発な地域活動を希望する地域講師は、中枢機関だけではなく、同時に近隣施設への講師登録も行うことが望ましいと考えられる。

また、学習や地域での活動が個人的な趣味趣向で終わってしまい、学んだことを活かし、深めるという広がりや十分でなかったことが自由意見に散見された。自己実現につなげていくための段階的かつ、連続性をもった「学んだことを活かしあうしくみづくり」「学びあう場づくり」が求められている。さらに、地域講師への依頼数（需要）と、地域講師の数（供給）のバランスが崩れ、供給過多になっているという意見も見られた。今は、地域講師の「質」の向上が求められているため、指導者育成、後継者育成のための研修、支援事業の充実は、三重県生涯学習センターの負うべき使命であると考えられる。

※ 〇〇部は「第2次三重県生涯学習振興基本計画」より引用

## 地域での活動を活発に

地域講師の多くは、自らの地域活動に関連する団体・グループに所属しており、このことが直接、間接的（情報収集や活動規模の拡大、研修やスキルアップ機会の増加など）に活動の幅に影響を与えている。個人で活動している地域講師が、有益な学習情報を得る一方策として、団体・グループへ所属することは、地域活動を活発にするという点で有効であると考えられる。

しかし、特別な技術・技能や資格を要する活動内容のため、同じようなジャンルや目的での団体・グループづくりが困難な地域講師がいることも忘れてはならない。三重県生涯学習審議会答申「これからの三重県における生涯学習のあり方について」での提案を受けて、平成13年10月11日に、三重県生涯学習センターが事務局となり、「みえ生涯学習ネットワーク」が発足した。このネットワークは、分野や活動の規模にかかわらず、「生涯学習」の名のもとに学習活動を実践している団体、個人をネットワーク化し、さまざまな情報共有や情報発信を経て、県民と会員、会員同士のつながりや広がりやの支援と、県民への生涯学習情報提供を目的としている。このことから、個人で活動している地域講師にも、有益な学習情報を届けることができる「団体・グループ」の1つとして挙げられるのではないだろうか。「学びあうしくみづくり」として「みえ生涯学習ネットワーク」の拡充・推進を図り、地域講師への活動支援につなげていきたい。

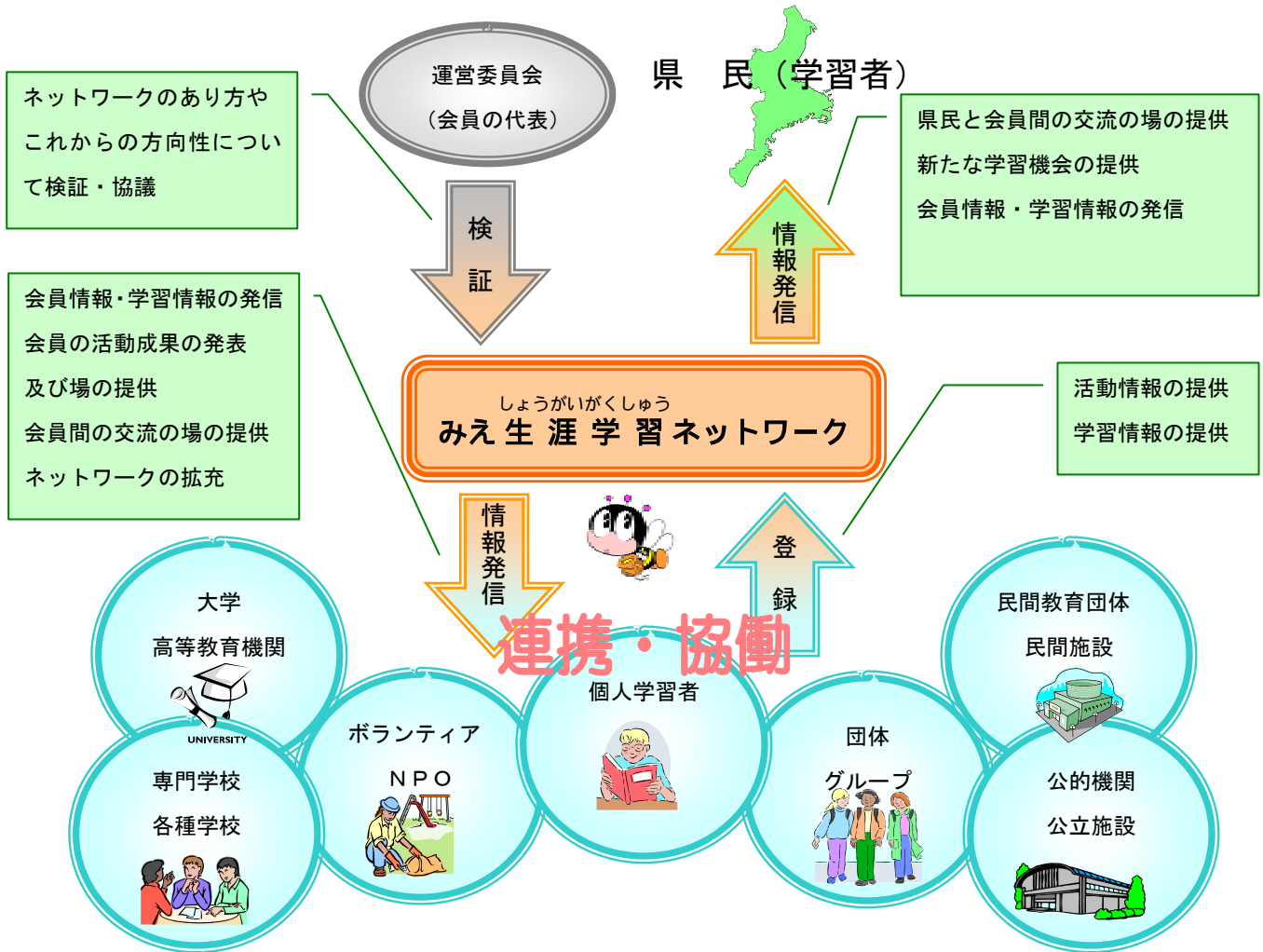
※ 〇〇部は「第2次三重県生涯学習振興基本計画」より引用

## IV 付録

- ・ みえ生涯学習ネットワーク（イメージ図説）
- ・ 質問票



みえ生涯学習ネットワーク（イメージ図説）



# 生涯学習に関する意識調査

三重県生涯学習センター

三重県生涯学習センターでは、みなさまの生涯学習を支援するために、様々な研修や講座を開催しています。また、地域で活躍されている講師・指導者の情報を収集してデータ化し、ホームページ上で検索できるシステムを構築し、運営しています。

この調査は、これまでの取り組みがどのように役立っているのか、また、地域で活躍されている講師・指導者のみなさまがどのようなご要望やご意見をお持ちなのかを知るためのものです。

お答えいただきました内容については、数値化して分析し、みなさまへ情報発信していきます。

お手数をおかけしますが、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

ご記入頂きましたアンケートは

**11月30日(木)までに**

同封の封筒にてご返送下さい。

## 問い合わせ先

三重県生涯学習センター（三重県総合文化センター内）

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234

TEL 059-233-1150 FAX 059-233-1155

## 調査対象者

この調査は、現在（平成18年9月現在）三重県生涯学習センターのホームページ上で「講師・指導者」情報に登録されている方をお願いしています。

## ご記入にあたって

お答えは、選択肢の中からあなたの現状やお考えに近いものを選んでいただき、で囲んで下さい。

「その他」を選ばれた場合は、具体的な内容をご記入下さい。

## 個人情報の取り扱いについて

ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、調査以外の目的には一切使用いたしません。

## 生涯学習に関する意識調査

### ～地域講師の活動状況と学習志向に関する調査～

以下の問いについて、あてはまる記号に をつけるか、必要な事項をご記入下さい。

**あなたの性別、職業、お住まいをお答え下さい。**

Q. 1 性別をお答え下さい。

- a 男性                      b 女性

Q. 2 年齢をお答え下さい。(平成18年12月現在)

- a 20代      b 30代      c 40代      d 50代  
e 60代      f 70代以上

Q. 3 職業等についてお答え下さい。

- a 自営業                      b お勤め(常勤)                      c パート・アルバイト  
d 家事専業                      e 学生                      f 無職  
g その他(                      )

Q. 4 あなたのお住まいについてお答え下さい。

(                      )市      または      (                      )町

**あなたの講師としての活動についてお答え下さい。**

Q. 5 あなたは、この1年間に地域講師として活動されましたか？

- a はい ( Q6へ)                      b いいえ ( Q11へ)

〔Q.5で「はい」とお答えの方におたずねします。〕

Q. 6 何回活動されましたか？

- a 1回/年                      b 2回/年                      c 3回/年  
d 4回/年                      e 5回/年                      f 6回以上

Q. 7 活動範囲はどの程度でしたか？

- a 在住の市町内                      b 近隣の市町                      c 県内全域                      d 県外

Q. 8 どのような経緯での講師依頼がありますか？

- a 講師登録先からの依頼                      b 知り合いからの依頼  
c 学校からの依頼                      d 所属する団体・グループからの依頼  
e その他(                      )

Q. 9 活動場所はどこでしたか？(多い順に2つ選んで下さい)

- a 学校                      b 公民館                      c 生涯学習センター  
d その他公的施設                      e 民間施設  
f その他(                      )

Q.10 講師料はいくらですか？(およその金額で結構です)

- a 有償(                      円)                      b 無償  
c その時により異なる                      d 交通費のみ

Q12へ

〔Q.5で「いいえ」とお答えの方におたずねします。〕

Q.11 あなたが、この1年間に地域講師として活動されなかった理由は何ですか？

- a 講師登録先からの連絡がなかった  
b 時間的に余裕がなかった  
c 講師依頼はあったが、自分のできる内容ではなかった  
d 一緒にできる仲間がいなかった  
e その他(                      )

うら 面へ

Q.1 2 講師登録をしてから活動の幅は広がりましたか？

- a 広がった
- b 狭まった
- c どちらともいえない
- d 分からない

〔Q.1 2で「広がった」とお答えの方におたずねします。〕

Q.1 3 どのような点で「広がった」と感じられますか？（複数可）

- a 自己実現につながった
- b 仲間づくりができた
- c 生きがいがあった
- d 地域貢献ができた
- e その他( )

**自己実現のための取り組みについてお答え下さい。**

Q.1 4 自らのスキルアップのために取り組んでいることはありますか？

- a ある
- b ない

〔Q.1 4で「ある」とお答えの方におたずねします。〕

Q.1 5 それは、どのような方法ですか？

- a 公的な施設での研修会や講習会への積極的な参加
- b 民間施設での研修会や講習会への積極的な参加
- c グループ内での情報交換
- d 積極的な講師としての活動
- e 大学などの公開講座への参加
- f 個人学習
- g その他( )

Q.1 6 三重県生涯学習センター以外で地域講師として登録をされていますか？

- a 登録している
- b 登録していない

〔Q.1 6で「登録している」とお答えの方におたずねします。〕

差し支えなければ登録先をご記入下さい。 例) 三重県生涯学習センター


Q.1 7 あなたは、地域での活動を目的とした団体・グループに所属していますか？

- a 所属している
- b 所属していない

Q.1 8 より活発な地域活動を行うためには何が必要だとお考えですか？（複数可）

- a 講師登録情報の一元化
- b スキルアップのための講座・研修の充実
- c 講師情報の広報の拡大
- d 活動内容の発表の場づくり
- e 講師間ネットワークの構築(自主グループづくり)

Q.1 8の答えを受けて、あなたの考える理想的な地域活動のすすめ方について自由にお書き下さい。

**社会教育・生涯学習にかかる行政機関、もしくは三重県生涯学習センターへのご意見・ご要望等がありましたらご自由にお書きください。**

ご協力ありがとうございました。  
同封いたしました返信用封筒にて **11月30日(木)**までにご投函いただきますようお願い申し上げます。

平成18年度 調査研究事業報告書

「地域講師の活動状況と学習志向に関する調査」

平成19年3月 発行

**編集発行** 三重県生涯学習センター  
**所在地** 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 番地  
**電話番号** (059) 233-1150 ・ 1151  
**F A X** (059) 233-1155  
**U R L** <http://www.center-mie.or.jp/manabi/>  
**監 修** 三重県教育委員会事務局 生涯学習室